

平成23年10月25日

広島大学大学院文学研究科
第9回「文藝学校」講演会を開催

広島大学大学院文学研究科は、株式会社今井書店と共催で、毎年「文藝学校」を開催しております。

今年度は下記のとおり開催しますので、お知らせいたします。

記

- 名称 第9回「文藝学校」講演会
- 日時 平成23年10月29日（土） 13:30～16:40
- 会場 本の学校2階多目的ホール
鳥取県米子市新開2丁目3-10
- プログラム
演題1：フランス文学の名作を読む
講師：広島大学大学院文学研究科教授 松本陽正

演題2：＜文学の街＞以前
－今川了俊『道ゆきぶり』の「尾道」－
講師：市立尾道大学芸術文化学部准教授 藤川功和

演題3：日本文学に育てられて
講師：広島大学名誉教授・福山大学人間文化学部長 位藤邦生
- 参加費 無 料
- 申込先 0859-31-5001

【お問い合わせ先】

広島大学大学院文学研究科
運営支援グループ 矢野 久美
TEL:082-424-6604、FAX:082-424-0315
Email:bun-soumu@office.hiroshima-u.ac.jp

第9回「文藝学校」講演会

広島大学大学院文学研究科では、文学・語学系の教員を中心として「文藝学校」と名づける活動を展開してきました。構成員が個々に行う研究をわかりやすい形で一般の方々に聞いていただこうと、毎年1回開催。おかげさまで本年（2011年）、9回目を迎えます。皆さまのお越しをお待ちしております。

司会：妹尾好信（広島大学大学院文学研究科教授）

◆演題1：フランス文学の名作を読む

講師：松本陽正（広島大学大学院文学研究科教授）

レジスタンス（第2次大戦中のドイツ占領軍に対する抵抗運動）文学の金字塔ともいえるヴェルコール『海の沈黙』（岩波文庫）を分析し、あわせてフランスとドイツとの関係について考えてみます。

◆演題2：＜文学の街＞以前—今川了俊『道ゆきぶり』の「尾道」—

講師：藤川 功和（市立尾道大学芸術文化学部准教授）

今年は奇しくも林芙美子（1903～1951）の没後60年にあたります。その林芙美子の代表作『放浪記』や、志賀直哉の『暗夜行路』等の舞台となり、今や「文学の街」とも称される尾道ですが、近代以前の文学作品にも尾道はしばしば登場します。今回は、室町時代の武将にして歌人でもあった今川了俊（1326～1414頃？）の紀行文『道ゆきぶり』に描かれている「尾道」を読みたいと思います。

◆演題3：日本文学に育てられて

講師：位藤邦生（広島大学名誉教授・福山大学教授・同人間文化学部長）

これまで私を育ててくれた日本文学作品の中から、『古事記』『源氏物語』と、いくつかの愛唱歌をとりあげて、その魅力についてお話しします。これらの作品には、私にとっての圧倒的な魅力と、一種の違和感が混在していて、いまだに離れられないのです。

日 時 10月29日（土） 午後1：30～4：40

場 所 本の学校 2階 多目的ホール

★参加費無料・要事前申込★

参加希望の方は、fax またはお電話でお申し込みください

お申し込み先：fax 0859-31-9231 または Tel 0859-31-5001 (10時～17時)

主 催	広島大学大学院文学研究科「文藝学校」・「本の学校」郁文塾
共 催	(株)今井書店グループ
後 援	鳥取県教育委員会・米子市教育委員会・「本の学校」生涯読書をすすめる会